

計画の背景

1. イントロダクション 『調査はどのように行われたか』

1.1 調査の経緯

ルーマニア国政府はわが国に対し、ブカレスト都市圏総合都市交通計画調査の実施を要請し、これにこたえて、わが国政府は国際協力事業団（JICA）を通じ、本調査の実施を決定した。

家田 仁博士に率いられた事前調査団は 1998 年 2 月にルーマニアへ派遣され、Scope of Work が合意された。その合意のもとに本格調査団は 1998 年 7 月に現地調査を開始し、1999 年 12 月まで継続した。調査は図 1.1 に示すフローに従い実施された。

1.2 調査の目的と範囲

調査の目的は次の通りである。

- 1) ブカレスト都市圏における 2015 年を目標とした総合都市交通マスタープランの策定
- 2) 本調査終了後早期に実施されることが望ましい優先プロジェクト・プログラムについての調査
- 3) 調査の過程を通じてのカウンターパートへの技術移転

調査対象地域は、ブカレスト市と近傍の通勤圏を含むブカレスト都市圏である（図 1.2）。

1.3 実施体制

調査の実施にあたって国際協力事業団（JICA）は、吉田健氏を団長とする JICA 調査団と、調査の進捗に応じて助言を求めため、家田仁博士を委員長とする作業監理委員会を組織した。ルーマニア側は JICA 調査団と協同で調査を行うため、ブカレスト市役所内にチェハン・ニコラエ氏を長とするカウンターパートチームを組織し、更にブカレスト副市長パウル・ボボヴァット氏を議長とする関係機関からなるステアリングコミティを設置し、調査の円滑な進行を図った。調査団、作業監理委員会、カウンターパート並びにステアリングコミティの関係を図 1.3 に示す。

1.4 調査報告書

調査報告書は、メイン・レポート（英文）と要約編（英文・和文）とからなる。

1.5 技術移転

調査団は現地でカウンターパートと共同で作業を行うことを通じ、計画技術の移転に努めた。また、ワークショップを 3 回、セミナーを 1 回開催し、専門家、関係者等に対し調査内容の啓発に努めた。特にワークショップやセミナーにおける作業監理委員の講演、配布資料、パンフレット等は、調査に対する理解を深めることにおおいに寄与した。調査期間中、3 名のカウンターパートが来日し、日本における計画技術の修得、都市交通の現場視察を行い、都市交通計画立案への理解を深めた。

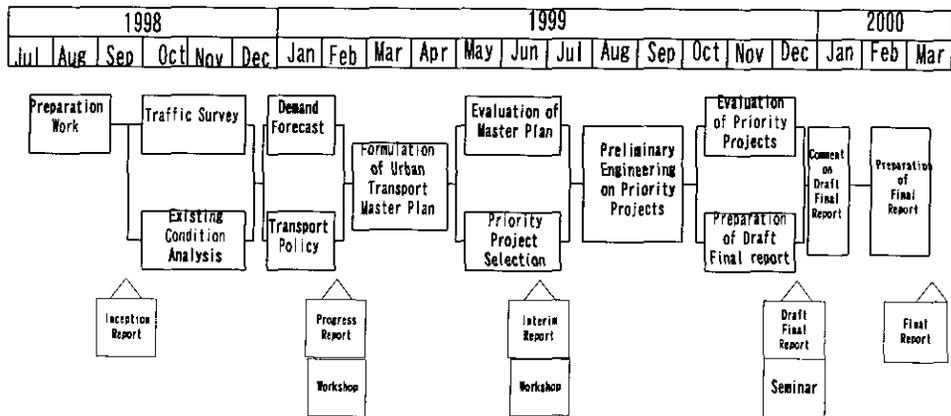


図 1.1 調査フロー

メインレポートの目次構成

Part I	Part II	Part III
I . Introduction	III . Future Transport Demand	V . Priority Project Study
1. Introduction of the Study	8.Socio-economic Development Scenarios	16.Inner Ring Completion with Basarab Overpass
II . Existing Conditions	9.Urban Development Pattern	17.Bottole Neck Piata Improvement
2.Socio-economic Conditions	10.Future Transport Demand	18.Parking System Development in Central Area
3.Existing Land Use and Environmental Condition	IV .Transport Master Plan	19.New Public Transit Corridor Development
4.Person Trips Characteristics and Freight Movement	11.Transport Master Plan Formulation	20.Fare System Improvement
5.Road Facilities and Road Traffic	12.Road Sector Plan	
6.Public Transport	13.Public Transport Plan	
7.Problems and Issues	14.Evaluation of Transport Master Plan	
	15.Action Plan	

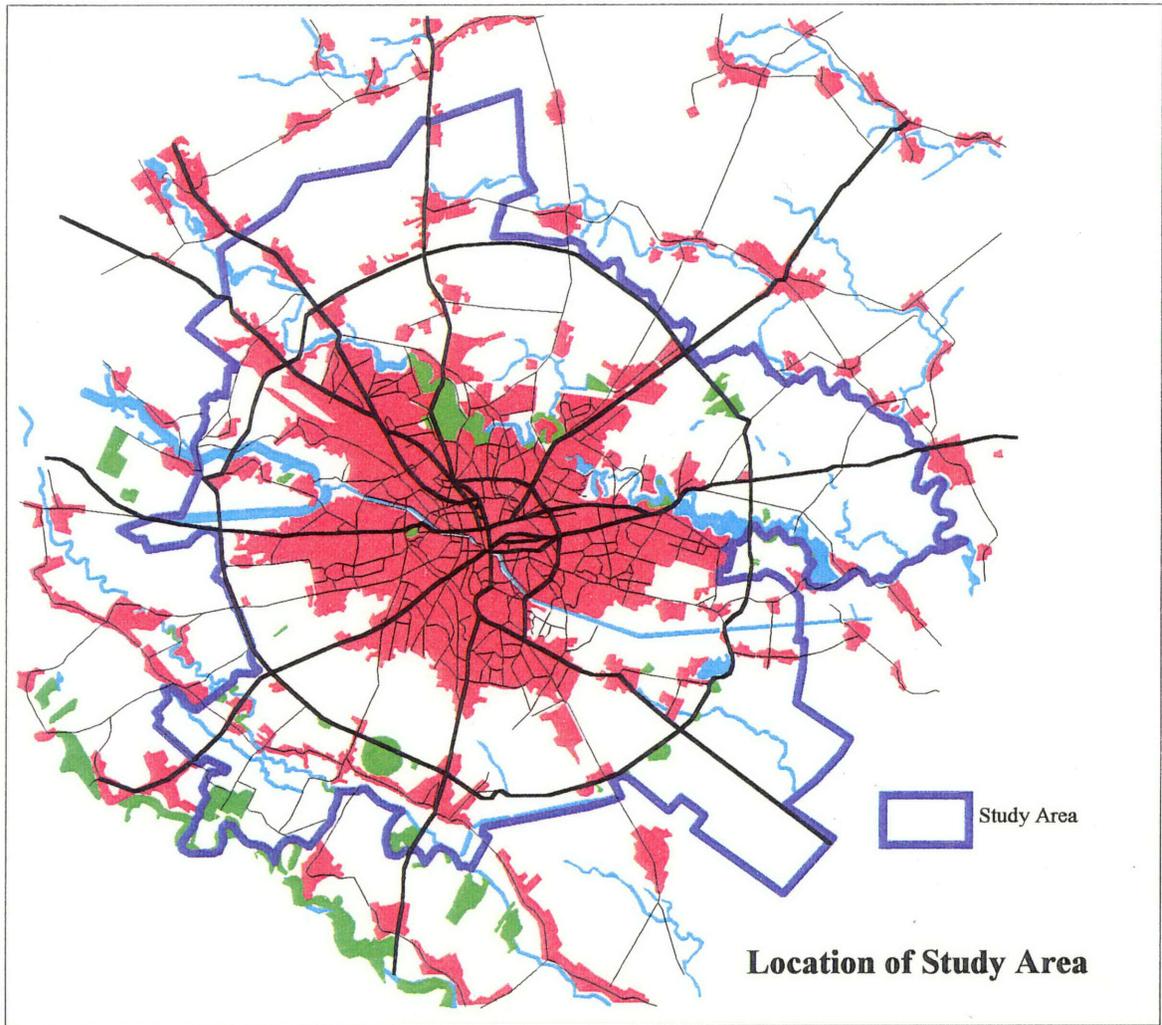


図 1.2 調査対象地域

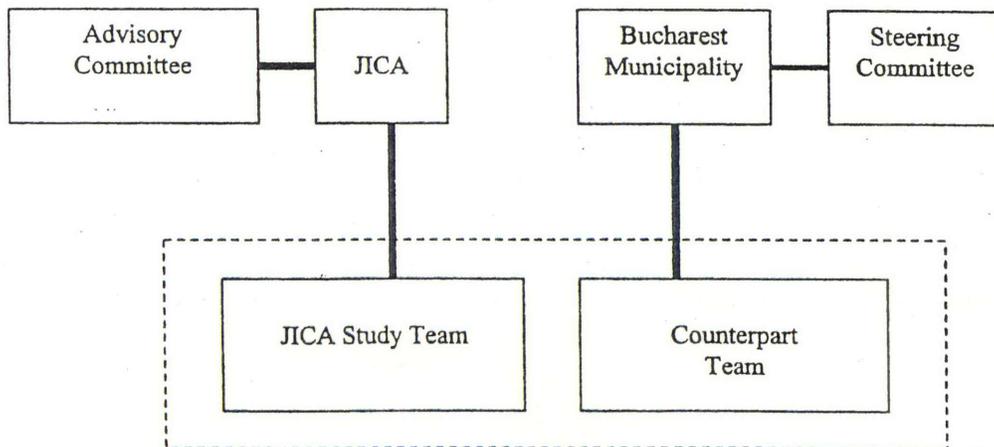


図 1.3 実施体制